

百日咳

特徴

やまさき小児科

- 誰にでもうつる可能性があり、予防接種をしていてもうつる可能性があります
- 百日咳は3種混合、4種混合、5種混合ワクチンに含まれています
- ワクチン未接種の方や新生児のお子さんは症状が強く出ることがあり注意が必要です
接種した方は症状が軽く済むことが多いです
- 小学生頃からワクチンの効果が薄れてくるため、定期接種後に加えて以下の時期の任意接種
【三種混合：当院6,000円】を推奨しています。
推奨の対象者：妊娠中の方や新生児のお子さんがいるご家族の方、小学生前後のお子さん 等
- 初期（かぜの様な症状の頃）に抗生素を飲んでおくと咳が軽く済むことがあります。

症状

カタル期【約2週間】：かぜ症状ではじまり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります

けいがい
痙咳期【カタル期の後に約2～3週間】：次第に特徴のあるけいれん様の咳（痙咳）が出現します

回復期【痙咳期の後2～3週間】：次第に咳が落ち着きます

乳児期早期では特徴的な咳がなく気づきにくいとされており、無呼吸などに注意が必要です。

合併症としては肺炎や脳症などがあります。

- ・全経過で約2～3ヶ月で回復するとされています

検査

- ・迅速検査がない為、検査は行わないことが多いです。

検査をしない理由としては、疑いの時点から抗生素を開始し、結果が分かる頃には除菌できている為です。

鼻腔培養検査：2～5日間 採血：結果に数日かかり、2回する場合もあります

治療

- ・百日咳に効く抗生素の内服をします。5日間内服することで周囲への感染を抑えます。
- ・抗生素を内服しても咳は残りやすい為、漢方などが処方されることもあります。

登校・登園基準

- ・抗生素を5日間飲んだ後か、咳が落ち着けば可能です。



おうちでの過ごし方

- ・咳が激しい時は、刺激を減らすよう心掛けましょう。

室内の湿度を50～60%に保つ、部屋を清潔に保ちほこりや刺激物を減らす

マスクを着用して気道への刺激を減らす、温かい飲み物を摂取して喉を保護する など

